

# LLA シニア会通信

4号

2015年12月18日

## シニア会員3名追悼号

### 追悼号を出すに当たって

前回のLLAシニア会を市ヶ谷にあるアルカディア(旧私学会館)で開催して5年以上経過しました。LLAシニア会に登録しておられる方々を「会員」と呼ぶとすれば、本会は3人の重要な会員を失ってしまったこととなります。2010年11月に鈴木博さんが、今年7月に栗山昭一さんが、さらに11月には世話役をしておられた浅野博さんが逝ってしまいました。世話役のお手伝いをしている私は途方に暮れていました。

そんな折、金田正也さんが追悼特集号を出したらどうか、浅野さんに代わって宇佐美昇三さんにも世話役をやってもらったかどうかというご提案があり、池浦貞彦さんから賛意が表明されました。そのご提案を受けてLLAシニア会通信No.4を3人の方々の追悼特集号として出すことにし、原稿をお願いしたのでした。

暫らくの間何もしなかったLLAシニア会は何をしていたのかとお叱りを受けそうですが、正直なところ本会を今後も維持すべきかどうか悩んでおりました。

吉成雄一郎さんに [lla-sr@j-let.org](mailto:lla-sr@j-let.org) によるメーリングリストを作って管理してもらっていましたが、最近はその利用もぐっと減っていました。それに、どこかで会合を開くことがだんだん困難な状況になって、本会の存続意義を考え込んでいるところでした。

一方、金田正也さんから面白い提案を頂いていて、金田・浅野・大八木の3人で意見交換をしている最中に、浅野さんからの通信が途絶えてしまいました。恐らく体調を崩しておられたのでしょう。浅野さんのご意見を待っているうちに、皆様にお諮りするチャンスを逸していました。ご提案の内容は、ブログ利用に似ていて、PC上討論会のようなものです。金田さんには、改めて具体的にご提案いただこうと思います。

今後本会をどのようにするか、みなさんのご意向に沿いながら、宇佐美さんと大八木で世話役を勤めてまいります。みなさんの忌憚のないご意見を伺えれば大変ありがたいことです。どうぞよろしく願いいたします。

ここに謹んで、鈴木博さん、栗山昭一さん、浅野博さんのご冥福をお祈りし、追悼号を発行させていただきます。

2015年12月

大八木廣人

鈴木博さん 2010年11月2日逝去

#### 略歴

1961年 語学ラボラトリー協会を金田正也氏と創立に寄与

1962年—71年 千葉大学助手、専任講師、助教授

1971年—94年 東京大学助教授、教授

1981年 聴解力測定テスト開発、  
東大入試にリスニングテスト導入

1994年—99年 宇都宮大学教授

1999年—2002年 中部大学教授  
東京大学名誉教授

LET (LLA) では理事、副会長、関東支部長

JACET では理事、副会長、顧問

映画英語教育学会 (ATEM) 初代会長



## 約束

2010年10月末に鈴木先生の奥様、典子先生から電話を頂いた。7月に東大病院に入院したが自宅近くの病院に転院しているとのことで、すぐお見舞いに伺った。予想外にお元気で、ベッドの上に座って2、3時間話し込み、典子先生に「大丈夫？」と言われて長居したことに気づき帰ろうとした。すると典子先生が「あのことまだ話していないでしょ？」という。すると何かちょっとしたことを忘れていたという感じで「そうだったね」と言って話されたのは自分が死んだら葬儀で追悼文を読んで欲しいとのことであった。それまでの楽しい時間とのギャップが大きく、何を言われたのかよく理解できなかった。

先生は癌のため腎臓からの排出がうまくいかず、このままでは尿毒症で1週間の命だと言うことだった。そんなことが起きないことを祈りながらも確約をした。

カトリックでは追悼文を読まないのが普通だが読んで良いので、是非頼みたいということだった。

1週間して典子先生から奇跡が起こり、少し尿が出るようになったということだったが見舞いに伺うと意識があるかないか分からないような状態だった。明日は祝日なのでお見舞いに行こうと思った11月2日に亡くなったとの連絡を頂いた。悲しい約束は守った。

(見上晃)



## 鈴木博さんを悼む

鈴木さんに私がお会いしたのはLLAの会だったと思う。私が彼に引かれたのは、彼が工学部の出身だというのが原因だろう。LLのような機器を使いこなすには理工系のセンスが必要だと思ったからである。

なんとなく気が合って、彼の家へ行ったことがある。門前仲町のマンションへお邪魔したときは、お嬢さんがまだ赤ちゃんみたいなきときでお風呂から上がって、すっぽんぽんで居間を横切ったので私はびっくりした。八王子のお宅では奥様が出来たてのパンをご馳走してくれて嬉しかった。

こんなわけで私は彼と親しくなり、私が中京出版の中学校の英語教科書を作ることになったとき、私は鈴木さんに2年生のテキストの執筆を依頼した。

鈴木さんは凝り性で書くのが遅くて、その後続く3年生の部分の担当者が困ったことがある。しかし、鈴木さんが書いたものは出来上がると適切で、私は大変ありがたく思った。厄介なことをお願いして感謝している。

(羽鳥博愛)



## 鈴木博さんを悼む

2010年2月に開いたLLAシニア会ではお元気だった鈴木博さんが、その年の11月に逝ってしまうなんて思ってみなかつた。また、入院生活後のある日LET関東支部の忘年会にひょっこり現れたこともあった。鈴木さんは何事にも誠意をもって尽くす人だった。だから、多くの人から信頼されて、いつかはLLAの会長になってもらいたいと願う人は多かった。鈴木さんは千葉大でお世話になった天野一夫先生を大変尊敬し、公私共に深いお付き合いをしておられた。天野先生退官後、先生のお話を聞く機会を設けたいと、八王子のご自宅に私たち数名が招かれた。天野先生を独り占めにしないで、みんなで先生から学ぼうとする人柄の表れだった。

鈴木さんは千葉大から東大に転勤した後、教育機器の導入・英語教育IT化・海外語学研修などいくつかの改革に取り組み成果をあげたと聞く。東大の入試に英語のリスニングテ

ストが導入されて、それが全国に広がったのはまさに鈴木さんのご功績の一つだろうと思う。  
(大八木廣人)

★ ★ ★

鈴木博さん、

謙虚で他人をたてる奥ゆかしい人だった。同年齢、ICUで同期、視聴覚の学会、LLAで最長の交友なので、思い出は尽きない。東京大学でLLAが開かれた時は、実行委員長だったのに自ら重たいVTRを抱えて発表会場へ運んでおられた。実際に映像が出るか最後まで鈴木さんは確認するのだった。

電気工学専攻で、ICUで視聴覚学会があった時も機材操作はお手のものだった。当時は電圧も不安定。16ミリ映写機の操作は免許さえいった。文系の私がプレゼンを何とかこなすと、鈴木さんは心から褒めてくださり、ご自分の番では「前の方が上手だった」と紹介してくださった。カトリックの信仰からか、自己の業績を誇ることは微塵もなかった。

典子夫人の介護もあって、八ヶ岳の山荘と八王子の自宅、さらに中部大学(名古屋)を往復される日程だったようだが、楽しんでおられるような口調だった。早く世を去られ、共に語る友を失った。哀惜の情に堪えない。  
(宇佐美昇三)



(写真は、オープンリール式テープレコーダー)

栗山昭一さん 2015年7月7日逝去 享年88

#### 略歴

1927年 東京に生まれる。  
1945年 都立報国中学（現都立小石川高校定時制）卒業  
現・東京都西東京市の田無小学校代用教員として、教職に就く  
1946年 早稲田大学高等師範部英語科入学  
1949年 学制改革により教育学部英語英文科に移行  
Direct Method を研究  
1953年 新制大学院修士課程（早稲田大学）修了  
1953年 育英学院中学校・工業高校（現育英高専）教諭  
1954年 早稲田大学高等学院教諭  
1966年 早稲田大学社会科学部助教授。1971年教授  
1977年 同 商学部に移籍  
1997年 定年退職。早稲田大学名誉教授



#### LLAでの役職

LLA 理事、LLA 関東支部事務局長

#### 栗山昭一先生を悼む

栗山昭一先生は、私の教師人生全ての面での師でした。それは、先生が担当されていた「英語科教育法」を、学部3年時に履修した時に始まります。

そこでまず、威厳と優しさを兼ね備えた教師の学生・生徒に接する態度を目のあたりにしました。科目の性格上、完全なLL授業ではありませんでしたが、それでもLL教室を使った個別指導のタイミングなどを学生として学ばせて頂きました。

大学院生になって、先生が設計された早稲田大学商学部のLL自習室のTAにお誘いを受けました。

次の年に、栗山先生がLLA関東支部事務局長を引き受けられ、私は、会計、庶務としてお手伝いさせて頂く事になりました。

先生は、事務局長としてLLAの財政を好転させ、今は毎回配布される支部研究大会発表要項を制度化されるなど、支部の運営に貢献されました。

その活動の中で、私は先生から、様々な教師としてのあり方、特に教材研究の実際の授業での活かし方などを先生の豊富なご経験を通して学ばせて頂きました。

私が、関東支部長の重任を仰せつかった折に、大八木廣人先生より「栗山先生が、森田くんを宜しく、と仰っておられたよ。」と伺いました。ことばに表せない感動を覚えました。

栗山先生の思い出は尽きないのですが、なぜかいつも思い出すのは、50年以上前の若き日の先生のお姿です。

実は、栗山先生と私の父は大学院の同期で、一度、家族で早大高等学院の運動会に伺った事があります。

その時に先生は、機械音痴の父に、先生が設計されたLL教室、LL準備室を楽しげに案内されました。実に楽しそうでした。先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

(森田 彰)

★ ★ ★

## 栗山先生と言え

まだ LLA に入りたての頃、野沢温泉中学で研究会があった。前日は懐かしいティーチインがあり、参加者の多くは仲良く楽しい雰囲気、翌日の研究会に参加した。野沢温泉中学は、窓に北欧の特別製の窓枠を採用した近代的な新しい校舎で、羨ましい環境での授業だった。

授業の中盤で生徒は、ペアを作り口頭での練習を行った。生徒の数が奇数でペアを組めない生徒が出たため、栗山先生がボランティアを買って出た。それだけでも思い出深い研究授業になっただろうに栗山先生の練習用会話の展開に教室中が大笑いになった。会話の詳細は忘れてしまったが展開は以下のものであった。

I ski.  
You ski.  
We ski.  
Whiskey? I like whiskey.

もちろん “I like whiskey.” は栗山先生である。当時の中学生は、もう 50 歳近いはずである。栗山先生との楽しい会話をしっかり覚えているに違いない。 (見上晃)

★ ★ ★

## 栗山昭一さんを悼む

栗山昭一さんは人間的な魅力のある人だった。会うと必ず微笑と労わりの言葉をかけてもらったのを思い出す。栗山さんが LLA 関東支部事務局長の頃、早稲田大学商学部にお邪魔することが多かった。当時は、早稲田大学の教員だけでなく、事務職員にも数名の方々に運営委員を引き受けていただき、いろいろな場面で支えて頂いた。恐らく栗山さんへの信頼と敬意が根底にあったことではなかったかと今思う。

栗山さんは、学会の研究会が地方で開催される時は、一人で列車の旅を楽しんで一日前に着いておられた。研究会終了後にとということもあったが、基本的には、見知らぬ土地を歩き、自然を満喫し、だれとでも親しくお話することが好きな人だったと思う。

栗山さんが定年退職された後も LET 関東支部の事務局は、後輩の森田彰さんの事務局長や支部長などと相まって、大変お世話になった。なにか深いご縁となっているのではないかと思うことである。 (大八木廣人)

★ ★ ★

## 鉄道大好きだった栗山昭一さん。

銀河鉄道の乗り心地はいかがですか？

LLA では、いつも微笑みを絶えさなかった栗山さん。音声教育初期の話をしてくださいました。テープレコーダ (以下 TR) が、日本に齎された昭和 20 年代、TR は、テープを巻いたリールがむき出しで、大きさはミカン箱くらいの機械でした。据置型 TR だと 4 キロはあったでしょう。栗山さんは、天秤棒を担ぎ、棒の端に TR をぶら下げて多摩川の土手を運んだ。授業用に毎週、誰からか借りての往復、そうした苦労をさも愉快そうに話されました。

研究会で会津にいった時は、私鉄東武、野岩、会津鉄道を乗り継がれ、会社によって電車の車体はもちろん、車掌さんも制服が変化すると、その都度、撮影されました。

カメラを向けられた車掌が「ボクがお客さんを (依頼されて) 撮ることはあるけど！」と驚いてポーズしていました。

銀河で星が瞬いたら「栗山さんが、またフラッシュ使って、なにか撮影されたな」と微笑みましょう。 (宇佐美昇三)



浅野博さん 2015年10月9日逝去 享年84

略歴

1951年 東京高等師範学校(筑波大学の前身)英文科卒

1951-64年 神奈川県立川崎高校、東京学芸大附属高校、  
東京教育大学附属中学校教諭

1965-74年 東京電機大学講師、助教授

1974-95年 筑波大学助教授、教授、  
同大学外国語センター長

1996-2004年 東洋学園大学教授、人文学部長、同大学視聴覚教育センター長  
筑波大学名誉教授



主な役職

日英言語文化学会顧問

全国英語教育学会顧問

外国語教育メディア学会名誉会長

関東甲信越英語教育学会名誉会長

浅野博さんを悼む

浅野博さんは物事を判断するとき冷静沈着で、相手を気遣う暖かい方だった。喋り方も理路整然として、広い視野と鋭い考察力を内に秘めた博学多才の紳士でもあった。

「浅野博のブログ放談集」(リーベル出版)では、英語教育批評だけでなく政治家やテレビ番組などの話題を穿ちに満ちた文章で論破するほど言語感覚の優れたところがあった。

「LLA シニア会」結成の頃「この会では～さんという呼び方にしませんか」と提案するほど権威主義や堅苦しいことが嫌いな人だった。だから会議の後などにお酒を飲みながら談笑するのが楽しい人だった。

浅野さんの名前が LLA 研究会のプログラムに現れたのは 1972 年頃からで、教材・指導・評価の分野での活躍が目立っていた。中学や高校での実践経験があったせいか説得力があった。浅野さんが LLA の会長だった 2000 年に学会名称が LET に変わり、FLEAT IV が開催された。

私は、浅野博さんが、代表で執筆された英和・和英辞典(東京書籍)を今愛用している。

(大八木廣人)



## 浅野先生を偲んで

浅野先生には、外国語教育メディア学会、関東甲信越教育学会の活動、中学校検定教科書(英語)の編著者の仕事などを通して、大変お世話なり、ご指導もいただきました。お会いして、お話をするたびに先生の英語教育への熱い思いが伝わってきました。2年ほど前に先生からご著書「浅野博のブログ放談集」(リーベル出版)を戴きました。この本の中で、教育歴50年の浅野先生が今の教育の現状とテレビ番組の実状をいかにも先生らしい辛口で評論されています。今、母語である日本語に健全な言語感覚が失われていることを嘆かれ、言語環境が悪くなれば、英語学習にも悪影響を与えると述べられています。

また、日本の社会全体が「英語一本槍」で、突き進んでいるが、複数の外国語から選択できる自由を学習者に与えるべきだとも書かれています。

「ホントにこれでよいのか?英語教育!」と問われ、私たちに宿題を出されて去られたような気がします。

先生の思いを今一度自分自身も心に問い直してみたいと思います。(石丸玲子)



## 浅野博さんを悼む

浅野さんは、かなり早くフルブライトの奨学金で、アメリカへ行ったらしく、私がアメリカから帰って、フルブライトの同窓会のようなところへ行ったら、浅野さんが幹事をやっていた。

その後、私が、彼を意識したのは、英語の教科書の関係である。私は三省堂の教科書を作っていて、その本は売れ行きもよかった。ところが、浅野さんが東京書籍から教科書を出すことになったので、私は、彼に追われる立場になった。彼の本もよく売れるようになり、文部省は私たちの意見を聞きたいと思ったのか、2人は学習指導要領の改訂のとき、作成協力者に指名されたのである。私のほうが年長であったので、私が委員長、浅野さんが副委員長ということで仕事は進んだ。私たちは、自分の教科書にはこだわらず、広く英語教育という見地から意見を出した。私たちの努力が認められたのか、次の改訂のときにも、再び一緒に仕事をするようになった。私たちは指導要領友達である。(羽鳥博愛)



## 浅野さん

と言うと先ず目に浮かぶのはいつも胸を張って背筋を伸ばし、顎を引いてまっすぐに前を見つめている姿勢の良い彼の雄姿です。それでいて優しい目つきや物腰には圧迫感は微塵も無く、世話好きで頭の切れは抜群の不思議な存在でした。晩年彼のブログに遺した辛口の雑誌記事批判や英語教育論は、読みごたえがあり、よく続いて多くの啓示を受けることができました。

LLについて印象に残る思い出は、勤務校筑波大に2億余の国家予算を取って4教室もの新設を手掛けられた政治的手腕です。しかもそれを全く自慢することもなくさりりと打ち明けられたときは驚きと喜びとでした。もうかれこれ四半世紀前のこと故、おそらくそれらの教室は、姿を消していることでしょう。それほど機器の進歩は早くメディア利用の教育の泣き所の一つです。

それやこれやの私たちの歩みを総括する座談会を、メディアを使って開けないか、メールを通して相談している途中で、彼は去ってしまいました。(金田正也)



## 浅野博先生との思い出

浅野先生との最初の出会いは、山形県で最初に高校の英語教育に LL を使った授業研究指定を受けたときだった。

LL 授業を行っている高校を視察して、先生の著書 LL 授業の教本を研究し、実際の授業を行った。東北大会で研究授業をすることになって、何度も先生から手紙で指導を受け、無事に終わったことが思い出される。

文部省主催の 3 か月筑波研修所で、英語だけ使用して生活をする研修のとき、浅野先生、鈴木博先生が講師で指導を受けたこともあった。

その後も LLA や研修会に参加したりしてご指導いただいた。また辞書や著書を頂いたり、LLA シニア会で飲みながら談笑したり、楽しく過ごした。

先生は、学者として、英語教師としての見識は、素晴らしく、日本でも有数の論客でもあった。

先生が、英語教育をスポーツに例えて論じたことがあった。英語の授業を水泳のプールでの水泳講習に譬え、プールで泳ぐことを教室の授業、海や川で泳ぐことを世の中で実際に英語を使うことであるという。

先生の辞書『ADVANCED FAVORITE 英和辞典』では英語学習をマラソンに譬え、走ることにだけに夢中にならないで、周囲の景色を見たり、応援の声を聞いたり余裕を持つことであると解説してある。

また、最新の著書「ブログ放談集」（2013 年）の中にも英文法の指導について、ラグビーの試合を見てからラグビーのルールが分かってきた。その方が定着は早いと、スポーツと英語学習を関連づけて書いてあって、分かりやすい。

先生からのご指導とご厚誼に感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。 (松田洋一)



## 浅野博さんを偲んで

浅野さん、何故貴方は、そんなに早くこの世を去ってしまったのか。残念でたまらない。機会を見て、ゆっくり膝を交えて話し合いたかったのに。初めて会った頃、貴方はエベレストのように高く仰ぎ見る存在であった。しかし、その内研究会や役員会で話しあっているうち友人の一人として付き合うようになった。

何故か縁が深く、名前を仮名で書けば、「ひろし」、「ヒロシ」で同じだ。生まれた年は、千葉大の國吉丈夫さんと 3 人一緒に、昭和 5 年だ。(学力差は雲泥の差) 浅野さんの特徴は、ご自分からも言われたように非常に負けず嫌いであった。その気質が原動力となり、自らも認める記憶力の良さと相まって、有数の英語の学者となった。

囲碁や、将棋はやらなかったようだ。

私が、生活環境が良くなく、思うように活動できないことを愚痴った時、「いかなる時でも楽しい生き方を見つけ、頑張るように」励まして下さったことを感謝し、忘れる事が出来ない。

また、友情に厚く、2003 年 2 月に私が国際教育研究所で講演した折、寒さが一段と厳しいにも関わらずご参加くださったことだ。 (佐藤 仁)



## 浅野博さん、今は安らかに。

浅野さんが筑波大で開発されたテストのおかげで、教員になりたての私は、短日月に複数の実験研究を重ねられた。まず学恩に感謝したい。



海軍ファンだった私に、ある日、浅野さんは「他人に話すのは初めて」と前置きして、お父上の最後を明かしてくださいました。お父上の浅野新平少将が皇族お付き武官で海軍兵学校卒業生表に1949年公死とあり、私には不審だったのだ。

浅野少将は戦争末期、南方の根拠地司令で赴任中、部下が冒した捕虜虐待の責任を被って戦犯として処刑されたのだった。1945年の終戦から約4年、学生の浅野さんが、獄中の父を思い、胸を痛められたことは拝察するに余りある。浅野さん紳士らしいマナーは、学生時代の体験が他人への思いやりとなって結実したのに違いない。長く発表を憚っていたこの話は、浅野さんの級友が最近ブログで明らかにした。よって浅野さんの御霊安かれと祈りつつ、事実を記す次第である。  
(宇佐美昇三)



後列：左から石丸玲子、鈴木博、金田正也、宇佐美昇三、戸川良弘、佐藤仁、大八木廣人。  
前列：左から羽鳥博愛、大井上滋、丹羽義信、浅野博、國吉丈夫、石川達朗。(2010年2月：於：私学会館)

### 浅野博さん、鈴木博さんの思い出

お二人には大変お世話になりましたが、私は忘却がはげしく、以下のような些細なことしか書なくて申し訳ありません。

浅野さんにはわたしが会長していたとき、たしか上越教育大学で支部研究大会があったおり、私は会長だから支部の会に出て、挨拶、激励すべきと思って出かけたところ、浅野さんが車で迎えに来てくださった。途中LLの効果について伺い、浅野さんの澄んだ声が忘れられません。到着するとLL講習会やら中高のLL通で満ち溢れ、浅野さんを中心にLL天国の感がみなぎっていた。しかし、わたしが会長るときLLAはLETに変わってしまった。数年前、浅野さんに「どうだね。CALL教室はうまくいっているかね」とたずねると浅野さんは笑って「勝手に別のことをしてますよ」と、さらに「ひどいのは買い物してますよ」と、私は驚きの笑でこたえたが、浅野さんに一抹の淋しそうな表情を感じた。今もLLAがつづいていたらと思ったりする。

鈴木さんには、同じ国立大学所属ということで、見習うことにこれ務めた。中部大学へきていただいたときのことである。先生の特別講演をお願いした。英語教育と機器の壮大な話を期待した。事実はまったく違っていた。それは現場の教育の話で、いままでやってこられた工夫の連続の内容であった。大言壮語して何もやらない自分が、はずかしかった。LLAがかくも栄えた理由も、この人あってこそと、感動した。  
(丹羽義信)

★ ★ ★

### ご冥福を

栗山昭一先生は福田大昭先生の一年弟分。栗山昭一先生は、羽鳥博愛先生と共に鉄研。早大商学部の LL の各ブースの番号も必見。栗山昭一先生は高等学院の野球部の名監督。石垣義道先生も都立武蔵丘高校野球部監督。栗山昭一先生のご紹介で武蔵丘に AA 型が。新潟の戸川良弘先生も英語・LL・野球。高橋・菊池・渡辺・新井・高島先生も高校。所商の飯嶋先生も長谷川・栗山先生に師事。『左手で施した事は右手に伝えるな。』は昭一先生の口癖。ご冥福をお祈りします。

鈴木博先生は、控えめのお人柄の持ち主。『天野先生がこの教材を薦められた。』と“*English is good for you.*”の Lesson 1 の対話を伝授。“Who are you?” – “I am your wife.”に学生も大喜び！語研の大会で、福井・平間先生も大笑い！津田塾大 LL で中島文雄・鈴木先生コラボ。

浅野博先生の抱擁力に満ちた LL 教材！浅野・清水・大八木先生の電機大 LL 教室。浅野先生のご冥福を筑波を想い松田先生と。  
(石川達朗)



## For whom the bell tolls

by John Donne

No man is an island Entire of itself.  
Each is a piece of the continent,  
A part of the main.  
No man is an island,  
If a clod be washed away by the sea,  
Europe is the less.  
As well as if a promontory were.  
As well as if a manor of thine own  
Or of thine friend's were.  
Each man's death diminishes me,  
For I am involved in mankind.  
Therefore, send not to know  
For whom the bell tolls,  
It tolls for thee.